

編集後記

- ◇ 我が国では、その地理学的な条件の制約から、地震や台風などの自然災害が避けられないが、特に本年は7月に熊本地震、8月には千葉豪雨など大きな災害が続発した。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日でも早い復旧・復興をお祈りいたします。
- ◇ 本誌の調査・研究のコーナーでは、愛媛県で育成されたサトイモ品種「媛かぐや」の栽培技術について紹介いただいた。「媛かぐや」は交雑育種が難しいサトイモで、「筍芋」と「唐芋」の組合せにより育成された品種である。初めて見た際にその特異な外見に驚いたが、その後、テレビ番組でアイスクリームにも利用できることなどが紹介されていた。セル苗移植栽培により、省力化と用途に適したサイズの安定生産が可能となることが実証されており、現場への普及が期待される。
- ◇ おいも探訪のコーナーでは、7月に開催された甘藷問屋「川小商店創業150周年記念事業」レポートを収録している。約420年前、沖縄の野口村（現在の嘉手納町）に伝来したサツマイモは、江戸幕府による普及が始まるまでに120年を要した。創業150年といえ、そこから現在までの300年の半分に相当する訳で、関東大震災や第2次世界大戦といった時代の荒波をくぐり抜けてきた同社の更なる発展に期待している。
- ◇ 統計情報のコーナーでは、2025年農林業センサス結果から見える、いも類の栽培状況の変化についてレポートした。5年に一度という制約はあるものの、1経営体あたりの栽培面積など、生産構造の変化を把握できる貴重なデータである。いずれの作物（いも類）も栽培規模が拡大しており、特にサツマイモは、全国の販売目的での作付面積が増加に転じているのが注目される。
- ◇ 気象庁の3ヵ月予報によれば、地球温暖化やエルニーニョ現象等により、全国的に暖かい空気に覆われやすく、降水量はほぼ平年並とのことである。本誌が読者の皆様のお手元に届く頃は秋たけなわで、ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、ヤマノイモなど、いも類の収穫のシーズンで様々なイベントも予定されている。穏やかな秋晴れで豊穡の季節となることを切に願っている。

（矢野 哲男）

いも類振興情報 第169号

2026(令和8)年10月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: jrta@imoshin.or.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社